令和5年生駒市教育委員会第2回定例会会議録

1 日 時 令和5年2月27日(月) 午前9時30分～12時10分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第2号 臨時代理につき承認を求めることについて(生駒市学校医の委嘱について)
- (2) 議案第6号 生駒市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について
- (3) 議案第7号 令和5年度予算編成について
- (4) 議案第8号 令和5年生駒市議会第1回(3月)定例会提出議案の意見について
- (5) 議案第9号 令和5年度生駒市社会教育基本方針及び重点目標について
- (6) 議案第10号 令和5年度第2次生駒市教育大綱アクションプランの策定について
- (7) 議案第3号 令和5年度生駒市学校教育の目標について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	坂 谷 操	教育総務課長	山 本 英 樹
教育総務課課長	松 本 芳 樹	教育指導課長	前 田 伸 行
幼保こども園課長	松 田 悟	幼保こども園課指導主事	喜 多 美 枝 子
幼保こども園課指導主事	湯 川 祐 美 子	こども総務課長	武 元 一 真
子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	図書館課課長	錦 好 見
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	石 田 昌 代
教育指導課課長補佐	花 山 浩 一	教育政策室長	日 高 興 人
幼保こども園課課長補佐	福 山 清 美	こどもサポートセンター所長	若 狹 美 登 里
生涯学習課課長補佐	井 川 啓 一 郎	図書館南分館長	谷 江 真 美 子

生駒駅前図書室長 入 井 知 子
教育総務課（書記） 佐 竹 裕 介

教育政策室主幹 三 室 哲 哉
教育総務課（書記） 吉 川 優 香

6 傍聴者 1名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前々回及び前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における生駒市立学校の調査結果について、前田教育指導課長から説明

<参照：資料1>

(質疑)

飯島委員：コロナ禍ということもあり全国的に子ども達の体力測定数値が落ちていると先日全国ニュースで見た。先生方から見て、生駒市でもそのような印象はあるか。

前田課長：令和3年度と比較して大きくは変わっていない。令和2年度は中止しているため、前回調査は令和元年度であるが、その頃と比べると1ポイントほど低い。ただ、令和4年度に関しては、熱中症対策も含めてマスクを外して体育の指導をするよう通知をしており、子ども達が思い切って運動をできるように指示を出しているため、運動に関しては通常通りに戻ってきていると思っている。今後、影響については考えていかなければならないと考えている。

飯島委員：「保健体育の授業が楽しい」と回答した児童生徒の数が90%を超えている。女子はやや下回るが、かなり高いレベルなので良いことだと思う。しかし「運動が好き」や「運動が大切」と答えている子どもが、小学校5年生よりも中学校2年生の方が低くなっている点が気になる。受験が近いということもあるかもしれないが、高齢化社会の中では、健康に長生きすることが非常に重要で、生駒市では特にスポーツに重点的に取り組んでいると思う。中学校の生徒が「運動が好き」、「運動は大切」という意識をより高められるように、保健体育の授業等を通じて指導してほしいと思う。

坪井委員：飯島委員と同様、テレビの放送で全国的に子ども達の体力が下がっていると聞いていた中での今回の結果だったので、非常に嬉しくそしてありがたく思っている。全世代を対象にコロナ禍において体力の低下が懸念されており、学校においてもそのような活動の場が少なくなっている状況で、「保健体育が好き」等の項目にマイナスポイントが少ないということは、各学校の先生方が非常に苦慮されたのだろうと保護者としてありがたく思っている。体育や外遊びの減少による視力や筋力の低下等の報告も校医の先生から聞いたことがあるが、「保健だより」に体の動かし方を紹介したり、休み時間や朝の時間に簡単なヨガを取り入れたり、保健と体育が一体となって子ども達の体力や健康を守っているのだと思う。これからのポストコロナに向けて注目

されるであろう、身体を動かすことへの教育的な意義を意識し、引き続き体育教育をお願いしたい。

古島委員：資料1の1枚目の裏、下の方にある学校の運動部や地域スポーツクラブに所属している割合の報告で、運動部に所属している子ども達は全国平均・県平均をやや下回っているが、一方で、地域のスポーツクラブに所属している割合を含めると全体を上回っているという報告がある。運動部に限らないかもしれないが、中学校での部活動のあり方は非常に変わってきているように感じる。私は小学校でバスケットボールを教えているが、中学生に上がると、運動部に所属していない子どもでも入れる地域のクラブチームが非常に活発になってきているようだ。野球やサッカーであれば以前より地域で活動している子ども達が多いように思うが、それ以外のスポーツでも今非常に盛んになってきている。そのため、この部分の視点については、必ずしも「中学校の運動部に所属しているかどうか」ということではなくて「子ども達がどこでもスポーツに参加できる」あるいは「選択して自分達が行き先を決める」というような視点が、総合型地域スポーツクラブの事業にも関連して、今後の生駒市において必要だと思う。ここは運動の話だが、自分としては気になったので、感想として伝えさせてもらう。

吉尾委員：体力があるということを知ることによって励みになり、先生方や子ども達が次の新しい行動へ繋がれると嬉しいと思う。また、難しいことをさせるのではなく、日頃できることを毎日コツコツ積み重ねていき、体力向上に繋げる取り組みというのは大変意義のあることだと思うので、継続して各校園が頑張っていたきたい。学習に向かうためには体力が大事だと私は思っているのでもともと念頭に置きながら、子ども達の教育に携わってもらえたらと思う。引き続きお願いしたい。

○日程第3 報告第2号 臨時代理につき承認を求めることについて（生駒市学校医の委嘱について）

・臨時代理につき承認を求めることについて（生駒市学校医の委嘱について）、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p1>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 議案第6号 生駒市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について

・生駒市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について、松田幼保こども園課長から説明

<参照：議案書 p 2、資料 2 >
(質疑) なし

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第5 議案第7号 令和5年度予算編成について

・令和5年度予算編成について、奥田教育こども部長、八重生涯学習部長から説明

<参照：議案書 p 3、別冊1、資料4、資料5 >

(質疑)

飯島委員：資料4、3ページの「心の教育活動事業」のスーパーバイザーの設置とは、心の教育活動事業全般に関わるものか、スクールカウンセラーの配置に関わるものか。

前田課長：学校における事象において、通常配置しているスクールカウンセラーに加えて、緊急時に入ってもらえる方をスーパーバイザーとして考えている。

レイルズ委員：資料4で幼稚園・小学校・中学校の施設整備費用で、小学校施設整備や中学校施設整備、幼稚園施設整備の額はそれぞれ0円になっているが、これは(1)の学校施設改修等の別のところに組み込まれているから0円となっているという理解で正しいか。例えば小学校であれば、4ページの「(5)小学校施設整備」の額が0円になっているが、「(1)小学校管理運営」の最後に「学校施設改修」とあるので、こちらに施設改修整備費用が含まれているということなのか。もしくは施設改修整備が予算として全く取られていないのか。

奥田部長：事業の載せ方について、例えば、昨年度の小学校であれば「鹿ノ台小学校の設計業務」を施設整備という形でご指摘の箇所に記載していた。学童等についても同様に大きな事業については載せていたが、令和5年度については、そのような事業が無いため0円になっている。通常の改修工事については、改修に含まれている。表示の見方についての説明がなく申し訳ない。

レイルズ委員：必要な改修を随時行うための予算は別途確保されているということで安心した。次に、4ページ「(2)情報教育推進事業」の3番目「GIGAスクール運営支援センターの活用」について、GIGAスクール運営支援センター自体は去年から新しく加わったものだと思うが、この支援センターはどのように機能しているのか。

花山補佐：「GIGAスクール運営支援センター」には様々な業務があるが、例えば、今まで児童生徒がパスワードを忘れた場合の対応は、市教委に学校から連絡が入り指導主事が一人一人それぞれに対してパスワードの再設定を行っていた。しかし現在は、運営支援センターの方に直接依頼することができるので、こちらで作業を行う必要がなくなった。それ以外にも、各学校で教員や

児童生徒がどのソフトをどれくらい使っているのかを可視化できるアプリが開発されたので、ICT機器の活用具合を見ることができるようになった。また、こちらから依頼をすれば、子ども達の時間管理もしてくれるような業務になっている。

イノズ 委員：GIGAスクール運営支援センターは市内にあるのか。また、スタッフは常駐しているのか。

花山 補佐：県で業者を決めて行っている。生駒市はそこに負担金を払う形で参加している。

神澤 委員：資料4の3ページの「自校式通級指導教室推進事業」について、従来の適応指導教室との関係も含めて説明してほしい。

前田 課長：自校式通級指導教室については、令和5年度県の方から巡回で配置されている通級指導の先生が各学校の巡回指導へ行ったときに、各学校の特別支援学級や、特別支援・通級指導を将来的に担ってもらう先生にも入っていただき、一緒に通級指導のカンファレンスを行ったり、通級指導のスキルを学んでもらったりする。その際、その学級の先生が不在になるので、その補充に入ってもらう講師のための予算を計上させてもらった。

神澤 委員：巡回指導で来る先生というのは、生駒市ではなくて県教委からか。カウンセラーではなく先生が来られるということか。

前田 課長：県教委からで教師だ。

神澤 委員：3ページ「心の教育活動事業」について、スクールアドバイザーズの設置とあるが、スクールアドバイザーズの機能や役割を説明願いたい。

前田 課長：スクールアドバイザーズには、職種として、弁護士・警察関係OB・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーがあり、緊急時の対応をしていただいている。先ほどのスーパーバイザーとはまた違うもので、弁護士相談が一番多く利用されている。また、警察OBの方にも、警察事案等があった際に、まずそこへ相談して、警察に繋いでもらうという形で活用させてもらっている。またスクールソーシャルワーカーについても、常時入っているのとは違う形で、緊急の場合に学校へ行ってもらっている。

神澤 委員：警察OBの話が出たが、以前からスクールサポーターという名称で様々な機能で手伝ってもらっているが、それとは別の枠なのか。スクールサポートというのは、お金がいないとのことだったが、生駒市では動いているのか。子どもの安全を守る活動を行っている自治体もあるがどうか。

前田 課長：スクールサポーターは市で運営しているわけではなく、各学校でスクールボランティアの方や地域の方に手伝っていただいている見守り活動等を行っている。市教委が行っているのはアドバイザーズという形になる。

神澤 委員：学生達の学びのサポーターはどこに入っているのか。

前田 課長：2ページの教育委員会の中に入っている。

- 飯島委員：7ページの(7)図書館運営の中に電子図書館の運営とあるが、確か5・6年前に、電子図書の導入について尋ねた時に「非常に使いづらくて電子図書の導入はまだまだ」という回答だったと思うが、予算・冊数ベースで電子図書館・電子本はどのくらい導入されているのか。
- 西野館長：電子書籍の導入のきっかけとしてはコロナ禍になったことがある。全国的にも多くの公共図書館がコロナの交付金を活用してかなり導入してきた。生駒市もコロナによる外出制限や、障害者や高齢者の方に対して効果的であるということで導入した。それに伴いベンダーのタイトル数の増加や、購入しやすくなったのでかなり環境は改善されたと思う。ただ、やはりまだまだ紙の本には追いついていないというのが現状で、全国的にもようやく公共図書館での貸出がスタート地点に着いたというような雰囲気である。具体的には、今年度にコロナ交付金で自主財源を含めて400万円程度購入費を入れており、少しずつ充実させている。タイトル数については令和3年度末で1689になっている。
- 飯島委員：市史編さん事業に関して、生駒市史や奈良県史等は、図書館には置いてあるが一般の人が購入するにはハードルが高い。生駒市史等については、将来的に電子化する予定はあるか。
- 西野館長：具体的な話はまだ出ておらず計画段階だが、調査研究の中で出ている様々な資料を電子化して、インターネット上で見られるようなアーカイブの作成を計画している。本そのものの公開に関しては、発刊後に考えたいと思っており、今後の課題としたい。また、現在のところは、電子図書館のサイトで独自に市の方で発行した昔話や歴史のハンドブック等を音訳資料として読み上げで公開しており、現段階でできるところの公開を少しずつしている。
- 坪井委員：資料4の2ページ「(6)児童保育費」のウ「中保育園の手洗い場設置工事」とあるがこれはお湯が出るための工事か。
- 松田課長：まだ詳細は決定していないが、園と保護者の要望を吸い上げて、検討したいと思っている。
- 坪井委員：コロナで今後も手洗いの回数が増えると思うので、必ずお湯が出るような施設を作ってもらいたい。中保育園に始まり、順次保育園・幼稚園の手洗い場を変えらと思うが、必ずお湯が出るようにしてあげてほしい。次に6ページ「生涯学習施設管理・運営」に関してだが、やまびこホールは閉鎖の方向と認識していた。まだ予算がついているがなぜか。
- 西課長：廃止予定施設になっているが、来年度はまだ運営するので、予算は計上している。
- 坪井委員：(4)生涯学習施設整備事業も併せて、令和4年度では0円だったところが大きく跳ね上がって予算計上されており、施設の運営については非常に目立った感じの予算編成に見える。駐車場用地の購入や、噴水跡整備工事

等を予定されているが、ファシリティマネジメント的に縮小傾向ではなく、拡充傾向にあるという理解で良いか。

西 課 長：これは工事の項目がほとんどになるので、年によって増減するということがある。令和4年度にこの費目の予算計上がなかっただけで、令和5年度に急に増えた訳ではない。

坪 井 委 員：7ページの図書館運営費用について、大きく上がっていると思った。説明された図書館本館のリニューアル工事が大きいとは思いますが、ビブリオバトルの全国大会について少し聞きたい。学校単位でやっているビブリオバトルについては、子ども達にすごくいい刺激があると思っている。一方で全国大会について、イベントとして定着しており、図書館や生駒市が頑張っている事業という印象はあるが、開催することによって生駒市が得られるプラスの要素は算定しているのか。

西 野 館 長：学校以外の大人のビブリオバトルは図書館本館で、市民から市民への読書啓発ということで、毎月1回開催している。全国大会がこの活動の集大成になり、ビブリオクラブのメンバーや職員が一緒になって開催している形で一種のお祭りとして定着してきていると思っている。その際に有名な作家を呼ぶ等で、講演会や全国から選ばれた人の話を聞いてもらうことによって、まだビブリオバトルを知らない人や、興味はあるが図書館に通っていない人等にたくさん来ていただき、より一層読書推進が進んでいる現状なので、決して切り離して考えられるものではないと思っている。また、中学校で大会をしているが、毎年チャンプに来てもらって中学校の読書推進と両輪のような形でも進めさせてもらっている。

坪 井 委 員：私も、よく行かせてもらって拝見しているので分かるが、学校教育側にプラスがあるのかとずっと思っていて、参加されている方や会場に来られている方々の年齢も比較的高いようなので生涯学習の方に寄っていると思っていたが、学校にも相互に良い影響があるという理解で良いか。

西 野 館 長：学校への影響として、元々中学生大会は図書館が主催であり、2・3年前から学校へ所管が移ったものである。図書館としては両輪体制の意識は変わっていない。司書の方も図書館の方にビブリオバトルのことを聞きに来てもらったり、図書館がビブリオバトルの出前を学校にしたり、お互いに良い影響を与えながら進めていると考えている。

伊 藤 委 員：6ページの「生涯学習施設管理・運営費」について、今年度よりも来年度の予算が5000万円以上増える理由は何か。

西 課 長：光熱費の高騰分がそのまま増額となっている。

伊 藤 委 員：図書館の関係で、最近高齢者の中で特に読み上げの図書やビデオの図書等が人気だと聞く。アマゾンでもAUDIBLE(オーディブル)等が便利で、活用している方が多いとよく聞くが、図書館でもそういった読み上げ図書

等をボランティアも募ってやっていると思うが、どのぐらいの拡がり、タイトル数等が増えてきているのか。

西野館長：AUDIBLE(オーディブル)のブックについて、図書館では昔から市販の録音図書として購入しており、CDの形で収集していた。昨今は自宅でもパソコンやスマホで聞いている方が増えてきたということだと思うが、図書館では電子書籍に読み上げ機能が付いているものがある、それを活用してもらえればと思っている。音訳ボランティアもいるので、対面でこの本を読んでほしいと要望をもらえば読み上げるという対応もできる。また、全国的に障害者の方への対応になるが、音訳図書というものが国立国会図書館やサピエという専門図書館の方でかなり流通しており、それがダウンロードできる機能がある。図書館を介して紹介したり、直接申し込んで利用できるというような形もある。

伊藤委員：それについては、広報をしたり、図書館に行くときすぐ分かるような状態になっていたりすると大変嬉しいと思う。次に、イベントの際に協賛や後援等を取っていると思うが、協賛等の収入等はどこかに計上されているのか。広告料のような形で取っているものはないのか。教育に関わる部分でどのぐらいそういった収入があるのか。例えば、自治会がお祭り等で協賛金を集めるが教育予算の中にそういったものは存在しないのか。

八重部長：収入については、ふるさと納税等で配分されるものはある。お金で協賛という意味では、特に教育委員会の事業で当てはまるものはない。「市民みんなで創る音楽祭」等では入場料収入というものはあるが、広告収入というものではない。体育施設のネーミングライツでの収入はあるが、一つの事業に対しての広告や協賛での収入は基本ない。

伊藤委員：法的な阻害要因があるのかもしれないが、民間では、新聞社から協賛金をもらう等で努力している。公共性が高い事業で公共性の高い企業などに協賛してもらえば、予算的にも厳しい中、より多くの事業ができるのではと思った。今後、検討してはどうか。

奥田部長：事業の際に寄付をいただいたり、経費の案分であったり、動きとしては様々あるが、まず市の大きな考え方として、市長からも言われているが、例えば施設の関係でネーミングライツという形で貰える部分は貰うということをしている。企業版のふるさと納税等を活用して事業を立ち上げてやっていくというようなものもある。また協創対話窓口ということで、例えば教育こども部では、「のびのびホットルーム」に企業とのコラボとしてYogiboを無償で提供してもらっている。タイルカーペットを貼る場合も、経費をかけずに企業とのタイアップでやっているというところがある。収入として上げている場合と、上げない場合があるが、事業を立ち上げる際、歳入に関しては最新の注意を払いながら行っている。一般財源だけでいいのか、もしくは国の補助金をもらいながらするのか、そういったところを精査し

ながら事業の展開をしている。決して歳入を無視したままで事業を展開できるかというところではない。あらゆる補助金等の歳入を見ながら事業を進めていくという観点でこの予算を編成させてもらっていることだけ整理としてお知らせさせていただく。

イノダ 委員：8 ページ「新たな地域クラブ推進事業」について聞きたい。休日の学校部活動の地域移行を目指すということだと思うが、目的が学校の部活動に対する先生方の負担の削減や、より様々な指導員が入ることでの子ども達へのクラブ活動の充実化も含めて、生涯学習費用として計上されている。地域でのスポーツ活動の活発化等も目的に入るのか。また、令和5年度は具体的にどのような形で動いていくのか教えていただきたい。休日の部活動が地域移行となる場合、平日と全く違う活動をするのか、もしくは平日の延長になるのか。多世代での活動というようなことも入っているので、何か平日と休日とまた住み分けがされるのか等、そのような点を少し教えてほしい。

西 課 長：国・県は、令和7年度までに休日の完全移行を目指すとしている。現在、移行が進めにくい地域のこと考えながら国の方は緩やかになっているが、奈良県としては令和7年度までに、休日分は地域移行と目標を掲げている。生駒市については、来年度に新たな地域クラブ活動推進協議会を立ち上げ、その中で学校部活動になかった種目や、多世代多種目多志向多様性のクラブ、楽しむことを目的としたクラブ、それから文化芸術活動の探究クラブ等を作り、それに加えて部員数が少ない部活動の合同チームを作り、地域の小学生を入れるようにしたり、部活動がある校区以外の生徒も入れるような形にして新たな地域クラブというのを生駒市で8つほど立ち上げる予定をしている。5年度は推進協議会の中で、クラブの土日の分についての統廃合等を検討していただき、6・7年度では休日の完全移行を目指す。こちらが運営主体となり、受け皿を推進協議会で担ってもらう。スポーツ協会等、総合型地域スポーツクラブ、指定管理者、吹奏楽団体等の実施主体を育成し、その中に土日の学校部活動を何とか吸収していくという形で予定をしている。

原井教育長：平日の部活動については、教育指導課の方で指導員の増員ということで考えている。

前田 課 長：平日の部活動については、将来的な地域移行に向けての人材確保をしていくためにも、部活動指導員の予算を少し拡充させてもらっている。この事業に関しては、どういう形で進められるのか先生方はどうなっていくのかということが、まだ県から具体的な方針等が示されていない。国もあまり具体的ではないが、まずは今行っている地域の受け皿を整備することで、学校の先生の対応については改めて指針が出ると思うので、それに基づいて対応していきたいと考えている。

中川委員：先ほどの収入を考えたかどうかという話とも関連すると思うが、施設開放で、体育館の活用をもっとしていきたいと教育長と話したことがあった。私もそれは大賛成である。利用者から5時以降に利用できないという話も聞いたことがある。電気代や、暖房費等を収入として入れながら、税金で作った施設がそのまま朽ちていくことがないように、開放してもらえればと思う。これから先デジタル化が進み、パソコン一つで学校へいけるようなことになっていけば、教室内の私物が減るだろう。そうすると教室の開放もできるようになるかと思う。30年ほど前にアメリカの小学校の話を知ったことがあり、地域の方が教室を使うので、その方がエアコンを設置してくれたと聞いたことがある。このように、教室等も地域に開放し、その人達の協力を得ながら、使用の料金もいただきながら、施設開放を進めてもらえたらと考えている。

西課長：学校体育施設の開放については、恐らく聞かれた話というのは、新規の方がなかなか予約を取りづらいという話かと思う。生駒市は、かなり進んでいて、平日の夜もほとんど予約が詰まっているのが現状だ。ただ今後新たな地域部活動を進めていく中で、学校施設の活用というのは非常に重要な拠点になると思っているので、今現在利用している方々の理解を得ながら、整備の方を次年度以降進めていきたいと考えている。

吉尾委員：全体を見て、SDGsの誰一人取りこぼさない教育というところを意識してくださった予算ではないかと感じた。心の教育相談にしても、新規事業が入ったり、保健体育のところで車いすバスケットボール体験や障害者のため体力作りのプログラム等をどんどんやっていってもらっているところに生駒市の教育委員会の思いを感じ取れた。一つ質問だが、図書館本館のリニューアル事業について、簡単な計画でも良いので分かる範囲で教えてほしい。

西野館長：計画では来年度にワークショップを3回程度考えていて、現在図書館を利用している方やその関係団体、学校関係者、また外部の市民などから意見を聴取させてもらって、具体的に図書館からプランを出すのが来年度になる。そのプランをもとに令和6年度に実際にリフォームに入っていこうと思っている。ただ大がかりな工事で大きく変えてしまうというのではなく、什器関係の入れ替えであったり、レイアウトを変える等の工夫ができるところで変えていきたいと思っている。

吉尾委員：市民の方もすごく楽しみにされるのではないかと思う。職員の方もぜひワクワクするような楽しい図書館になるように、努力いただきたい。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第6 議案第8号 令和5年生駒市議会第1回(3月)定例会提出議案の意見について

・令和5年生駒市議会第1回(3月)定例会提出議案の意見について、松田幼保こども園課長、西スポーツ振興課長、山本教育総務課長、武元こども総務課長から説明

<参照：議案書p4～15、資料6、資料7、資料8>

(質疑)

イノズ 委員：「生駒市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例」について、これは学童保育や預かり保育等が対象になるということか。

武元 課長：学童保育が対象になる。

イノズ 委員：そうすると家庭的保育事業者というのがあるが、学校の施設内にある学童保育施設だけではなくて、それ以外で学童保育を提供している事業者ということになるのか。

松田 課長：学童保育以外に家庭的保育事業というものであり、生駒市では小規模保育所が対象になる。0歳から2歳を対象にした保育所で、送迎バスや安全計画等が対象になる。

イノズ 委員：学童保育と小規模保育所の繋がりが良く見えてなかったのだが、要するに国が規定を改正したから、それに伴う条例の改正と理解しているが、国が改正をした背景は、安全面の部分か、コロナ禍での安全面か、一連のバスの閉じ込めの事故があった上での条例改正か。分かる範囲で教えてほしい。

武元 課長：一連のバスの閉じ込めの事故があり、それを契機として、その他の安全計画であるとか、衛生の面も併せて規定するということでの改正になる。

坪井 委員：生駒市放課後児童健全育成事業について、議案書の12ページ第26条2について、「講じなければ」というところが、「講じるよう努めなければ」になり、「実施しなければ」というところが「実施するよう努めなければ」になり、「周知しなければ」ということが「周知するよう努めなければ」になっているが、努力目標に変わったという理解でよいか。

武元 課長：議案書のこの部分の条文の規定は、経過措置に関する表記で、計画等を定めるに当たり1年の猶予を定められている。実質は令和6年4月1日からということで、その部分の表現をここに書かれているということだ。令和6年4月1日まではそのように努めなければならないという表現になる。ただし令和6年度からは策定をしなければならないというような表現がこの条文でされているということだ。

坪井 委員：資料7の最後のページで、懲戒に関わる権限の濫用の禁止というところの第13条、第26条が削除されている。乳幼児や子どもに対しての虐待事例がすごく多くなっている中で、非常に大事な部分だと思うが削除されている理由を教えてほしい。

福山 補佐：民法において懲戒という子どもの躰、躰による体罰や罰則は削除されている。そもそもそういうことはしてはいけないということになっていて、懲戒という言葉が世の中から消えてなくなることになるので、躰による体罰や戒めのようなものは存在しないということになり、そもそも懲戒を文言に入れてはいけないことになった。それに伴って削除されたが、躰、躰による体罰や罰則に関する考え方が変わったわけではない。

イノダ 委員：今回の対象は学童保育と小規模保育所ということだが、小学校・保育園・幼稚園が対象になっていないのは、既に安全計画の策定等が定められていて、これまで対象になっていなかったものを含めるという理解で正しいか。

武元 課長：その通りである。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第7 議案第9号 令和5年度生駒市社会教育基本方針及び重点目標について

・令和5年度生駒市社会教育基本方針及び重点目標について、清水生涯学習課長から説明

<参照：議案書p16、別冊2>

(質疑)

中川 委員：3点ある。1つ目、「基本方針及び重点目標」の上から二つ目の「シニア世代が充実した生活(セカンドライフ)を送れるよう、…」というところで、具体的な事業内容の中に「寿生駒連絡協議会(気らくネット)」というのがあるが、寿大学のOBのクラブは20ほどあるのに、この「気らくネット」というのはその中の3つほどのクラブしか在籍されていないように思っていた。他のクラブにも同様のOB会のようなものがあるが、そちらも数に入っていないので、出来れば多くのOBの方に連絡を取りながらやってもらえるような形をこれから考えてほしい。ほとんどは卒業後、それぞれのクラブが自分達のその年の仲間で集まっているような感じなので、何かそこに連絡を取るような形で、広く意見を聞いてもらえるようにしてもらえばと考えている。また、2つ質問がある。1つは重点目標5つ目の「子ども・若者総合相談窓口(ユースネットいこま)」の今の実績と今後の目標を、相談件数等が分かれば、説明してほしい。また、重点目標6つ目の「将来にわたりスポーツ・文化芸術活動…」のところで「4Tクラブやラーニングクラブの設置や運営支援…」これについても今の実績と今後の目標を聞かせてほしい。

《 古島委員 退席 》

清水課長：質問一つ目の「ユースネットいこま」の運用状況は、例年1000件前後の相談を受けている。特に最近はコロナの影響もあり、不登校の相談が増加傾向にある。そういった部分については、例えば小・中学生であれば、教育相談室の先生方と連携をしながら対応している。また、毎年「ユースネットいこま」のチラシや、あるいは、生徒手帳にも入れてもらえるようカード式のものも作って配布するなど、小中高全ての児童生徒の皆さんに窓口の周知を行っている。また、自治会にも掲示板にポスターを貼ってもらう等、まずは、このような窓口があるということを知っていただくための周知に今後も力を入れ、相談者の方々の困難がどこにあるかということ、相談員と共に考えていくということ、今後引き続き行っていきたいと考えている。

西課長：2つ目の質問について、今後新たな地域クラブ活動推進協議会の方で審議いただくことになるのであくまで予定だが、まず4Tクラブの方は2中学校区を対象にできればと考えている。ラーニングクラブについては先ほど言った文化芸術探究クラブのことだが、まずは1つクラブを設立できればと考えている。

原井教育長：「気らくネット」についてはOB会ではなくて現役の学生も入って社会貢献を主としてされているということでここに挙げている。OB会は他にもあるが、OB会という括りではなくて寿大学の関係の方の地域貢献をする集まりということでここに挙げていると私は解釈している。

伊藤委員：4Tクラブについて、3Tという言葉がよく聞く言葉で、4つ目の多様性は入っていないと思うが、これは何を意味されているのか。

西課長：3Tも4Tも実は私が考えた言葉である。まず3Tは総合型の理念に伴い、「多世代・多種目・多志向」という3つのTを使っていた。そこにSDGsの考え方も含め、多様性という意味の4つ目のTを足し、4Tということで、現在では変えさせてもらっている。

審議結果 【原案のとおり可決】

○日程第8 議案第10号 令和5年度第2次生駒市教育大綱アクションプランの策定について

・令和5年度第2次生駒市教育大綱アクションプランの策定について、奥田教育こども部長から説明

<参照：議案書p17、別冊3>

(質疑)

伊藤委員：3ページの「待機児童解消に向けた取り組みの推進」について、現在どれぐらい待機児童がいるのか。実質待機児童の年度末の状況と、新たにこれから入所される方の状況を分かる範囲で教えてほしい。

- 松田課長：3月の入所分については、待機児童は10名程度である。4月の入所分については二次選考等をしているところで、待機児童数はまだ出ていない。
- 伊藤委員：例えばこども園に行けるバスが自宅の近くまで来ていたことを知らずに申し込みが遅れてしまったと聞いたことがあるので、コンシェルジュにバス便等の細かいところも、より丁寧に説明してもらいたい。親の勤務先のルートでも変わってくると思うので、きめ細やかな対応をしていただけると良いと思う。次に、6ページのなばた幼稚園と俵口幼稚園の来年度の入園予定児童の人数等を教えてほしい。
- 湯川指導主事：なばた幼稚園の来年度の入園予定児は、3歳児は12名になっている。俵口幼稚園の3歳児は、17名になっている。4歳児からの入園の予定もあるので、今のところは俵口幼稚園では58名が在園予定、なばた幼稚園については43名が在園予定になっている。
- 伊藤委員：人数が厳しい状況だと思うので今後も頑張ってもらいたい。次に、保幼小接続事業について、公立園以外の私立の幼稚園保育園との連携というのはどうしているのか。公立園と同等か差があるのか。
- 喜多指導主事：ここに挙げている保幼小の連携事業については、私立の保育園幼稚園も含めて会議等を行っており、研修についても同じく公立私立共に行っている。
- 伊藤委員：小学校との交流事業はどうか。
- 喜多指導主事：交流事業については各小学校区別で取り組んでもらっている。それによっても私立公立共に小学校との交流に参加してもらっている。
- イルズ委員：24ページに新規で講師不足対策を挙げている。非常に大事な課題であるし、アクションプランとして取り組むべき課題だと思うが、既に令和4年度で「講師相談会の実施」及び「生駒d e先生シェアハウスの準備」ということを書かれていて、これをさらに継続拡充されていくのだと思うが、もう少し具体的な予定を教えてほしい。
- 日高室長：講師不足対策については、生駒市としても全国的にも非常に喫緊の課題である。今年度は、教員の免許を持っている人への相談会を、随時きめ細かにしているところだ。「先生シェアハウス」については、枚方で事例があり、同様のものが生駒市でもできればと、市の住宅政策室とも連携を取りながら、広報活動を進めているところだ。来年度もシェアハウスについては引き続き広報活動を進めることに加えて、講師の相談会については、今回相当な数の応募があったので、来年度も複数回の実施を考えている。
- イルズ委員：シェアハウスはどのようなことをしているのか。
- 日高室長：シェアハウスについては、市内の空き家に教員免許を持った人等に住んでもらうイメージをしているが、それを運営してくれる人を募集する必要もある。シェアハウスをすることで、学校の教員免許を持った人達が相談しながら日々生活をできる体制をとれないかというイメージを持っている。今のところ先生からの応募やオーナーの希望者がいるわけではない。空き

家の所有者からニーズがあれば貸し出しても良いと聞いているところまでしかまだ進んでいない状況だ。

レイルス 委員：枚方の事例は知らないが、シェアハウスに住める先生というのは基本的に单身の方、若めの方が対象になると思うが、教員免許を持ち実際に教員をしてないというのは、もう少しミドルなイメージがあるが、そのあたりの考えがあるか、もしくは大学卒業して教員免許を持っているが活かしていない人を積極的に活用していこうというためのシェアハウスなのか。

日高室長：基本的には年齢層を縛っているわけではないが、想定として教育免許を持ちたて、大学卒業したてで、生駒に住みながら教員をやっていきたい人で、比較的若めの人をイメージしている。しかしそこに固定しているわけではない。

原井教育長：若い人で、これから先生になろうという人がメンタル的にしんどくなったり、世間的に教職がブラックと言われている中で、この教職に飛び込めずにいる方等に向けて、一緒に生活をしてお互い支え合ったり情報共有することで、また支援してくれる人が近くにいるということで、やってみようという思いを持って応募してもらえることを期待している。

レイルス 委員：講師相談会等いろいろしている中で、これに対してのアクションが必要になってくると思うので私も事例を勉強して何かあれば提案できればと思っている。

飯島委員：今の講師不足対策とも関連するが、非常に各事業の進行管理を見やすく整理してもらって、一体何が実現できているのかを見取りやすくなったが、一方で、例えば冒頭にある現状と課題について今ある講師不足対策という何か事業としては上がっているが、現状と課題の中には言及がない。そうすると、一般的な全体の傾向を把握するための現状と課題の中に新規の事業についての言及を一言でも入れておいた方が全体像が掴みやすくなると思う。次回で良いのでその現状と課題の中に踏み込むような形でお願いしたい。

原井教育長：この議案は継続にさせてもらいたいと思っている。私自身も、スタートとなる「目標名/現状値」が、部署によって第2次がスタートする前年度の令和元年度の時点の数字を書いているところもあれば、令和2年度・3年度の実績を書いているところもある。「目標値」に関しても毎年書かれているが、毎年ごとの振り返りの数がない。そのため、ずっと同じ数の部署もあれば、増えていく部署もある。この辺りの整理をして、今飯島委員が言ったように新規事業であれば、今現在の目標名と現状値はどうかということや、それを取組んだ結果、今であれば令和2年度と令和3年度の実績というのはもう出ていると思うので、その実績値を下の目標値のところに「目標値/実績」というような形で書いて、そこに実績を入れながらまた次の年度目標値を作っていくというように整理してはどうかと私自身

感じている。その辺の表現も含めて、今飯嶋委員が言ったように「現状どうなのか」というところと「目標どうなのか」そして「その実績がどうなのか」というところの表記の方法について意見をもらえたらと思っているがどうか。

中川委員：初めて去年見せてもらったときに、内容と目標値が書かれてないことに疑問だった。例えばレイノルズ委員が先ほど聞いた「令和5年はどういうことをされるのか」というようなところが書かれてないと分からないので、今教育長が言ったように取組内容については、今年から来年にかけて変わったところや目標を書いてもらいたい。また、目標値も今言ったように今年度の反省から来年度はどうするかを、数値で書いてもらえれば、分かりやすいと思う。例えば28ページのビブリオバトルの全国大会の参加者数も目標が380、380、300と段々減ってきている。これは一定の役割をやってもらったので、新しい事業にするとか、教育委員会にもたくさん仕事をしてもらっているの、重点化して畳むものと新しく作るものと、それから継続して数を増やしたり質を良くしていく、そういうものを改めて考えてもらいたい。その際、来年度の内容と数値ぐらひは書いてもらって、教育委員会がこんなことを目指しているというのが、市民から見ても分かりやすい形に進めてもらえればと思う。

原井教育長：案件に関しては先ほど言ったように継続審議で次回の定例会で決定ということになると思う。それでは先ほど少し触れさせていただいたように一番上の目標名現状値というのは、この事業の始まり令和元年度の段階でどうだったのかを記載していただく。そして令和2年3年4年と「目標値／実績値」という形で記入できるところは記入をして整理をしていく、令和4年度に関してもまだ3月の末までカウントしていかなければならないものがあるし、今の段階で事業が終わっていて実績が出ているものがあるので、そのあたりを事務局の方で少し整理して加筆をしてもらうということによいか。もし、何かあれば継続審議となっているので、事務局の方に後日でも連絡をもらえば検討対応させてもらいたい。

伊藤委員：11ページ上段「AI学習ドリルの導入」の件数について、件数が増えているが、この件数の数え方を知りたい。また、何校にどんな形で導入しているのか。

花山補佐：去年の9月から、生駒南小学校の5年生6年生と生駒南中学校の1年生から3年生で継続して行っている。2月に先生と子ども向けにアンケートを実施しており、また、全国学力テストの令和4年と令和5年の比較もする予定だ。AI学習ドリルは、1小学校1中学校で検証しているところで、全校展開するかは、実証をした後の話になる。また、この件数は、情報端末を活用した授業の展開ということで、学校から提出してもらった情報を使った授業の件数になる。

- 伊藤委員：13ページの「小・中学校のあり方検討事業」だが、南小中学校に関しての老朽化が次の14ページにあるが、13ページのこの部分については、今後具体的にどのようなことをやっていくのか。
- 山本課長：南小中学校は、一定の方向を示させてもらっているが、校区の関係で市内全域の部分というのはまだされていないので、その部分も今後検討していく必要はあると思う。その他の部分というのがまだ実施されていない部分は検討していかなければいけないので今後進めていくという形になる。
- 原井教育長：13ページの部分は準備委員会を立ち上げ、そこで研究者であったりや見学も含めて先行例の勉強をしていくなど、そういう検討を進めていくための枠組みだ。14ページの方は実際に全部改装を進めた整備ということで、境界線の確定や、開発に係る申請とか基本構想の設計段階に入ってくるのでそれに関する事業ということで考えている。
- 伊藤委員：13ページの部分を南小中学校の範囲と考えて良いのであれば、内容がスタート時点で止まっているので、令和5年度に少し詳しい内容を書いてもらえると良いと思う。南小中学校の準備委員会の立ち上げということを書いてもらえば良いのではないかと思った。また、20ページの「キャリア教育プランナーとの連携事業」について、実際には子ども達の評判も非常に良いと聞いているが、中学生でこの活動を実施する場合、定期テストの時期との兼ね合いを考えてもらう必要がある。定期テストの1週間前や部活動も停止している時期であると、キャリア教育プランナーの授業に集中しにくいという話が複数上がってきている。来年度以降の検討時期を精査してもらえるとありがたい。
- 神澤委員：15ページの「自殺対策推進事業」について、先生や生徒に対する「SOSの出し方教育」を続けていただいている。来年度はおそらく自殺大綱そのものを書き直さないといけない時期になる。これとは別の話かもしれないが、可能であれば子ども達だけではなく一般市民を対象とした「自殺対策計画」等もこの中に盛り込むことはできるのか。
- 山本課長：自殺対策の計画については、健康課が中心となっている。もちろん教育委員会は一緒に連携していく必要があるが、これは市全体で取り込むことになる。
- 神澤委員：県教委は来年恐らく県内の中学校で実験授業を行う。今高校で実験授業が終わったところで、来年度から高校は全県下の全高校で「SOSの出し方」の子ども達に向けた講座をやる予定だ。県は、中学校・小学校でも行いたいと考えている。生駒市での計画があれば教えてほしい。
- 前田課長：令和4年度から各学校で、「SOSの出し方研修」を行っており、来年度も引き続き行っていこうと考えている。
- 神澤委員：スクールカウンセラーのような人に来てもらって1回ものの授業をやっているという意味か。それとも、授業の枠組みの中でやっているということか。

前田課長：学校創造推進事業の中の一つとして、必ず行うように学校には周知している。

神澤委員：各クラスでやってもらうということか。

前田課長：学校によって様々で、各クラスでスクールカウンセラーの先生に来てもらっている学校もあれば、学年で行っているところもある。また、弁護士や講師を招いた場合は、全校ではなく学年集会で行っている。学校に任せているところだ。

神澤委員：もし可能なら教育委員会で、全体としてどんなプランでどんなことをしていくのかということ話す機会があっても良いかと思っているので、検討してもらえるか。

前田課長：学校創造推進事業の中に入れていっているので、やはり学校で取り組んでもらいたい。こちらから同じ先生を全校へ派遣するのは非常に難しいので、学校のできる範囲で、例えば生命に関する教育も行っているのも、その先生に命の関する教育と兼ねて話をしてもらうというふうに工夫している学校もあるので、こちらで統一するという考えは今のところ持っていない。

神澤委員：小中高校生の自殺者数は500人を超えてしまった。待ったなしだ。できることは何でもやっていきたいと思っている。協力お願いしたい。

審議結果 【継続審議】

《 坪井委員 退席 》

○日程第9 議案第3号 令和5年度生駒市学校教育の目標について

・令和5年度生駒市学校教育の目標について、前田教育指導課長から説明

<参照：議案書p18、別冊4、資料9>

(質疑)

飯島委員：意見を反映させて新しく案を整理してもらってありがたい。こうして生駒市学校教育の目標としてまとめてもらったものについて、例えばICTの取り組みや図書の活動等、各学校で課題となっていることや得意としていることに焦点化し、それぞれの学校教育の目標を作ってもらうベースとしてこれが位置づけられると理解している。今後はそれぞれの学校の価値を生み出してもらう必要がますます重要になってくると思う。各学校独自の焦点化された目標を作成していただきたい。

原井教育：明日、今年度最後の校長会があるので、この学校教育の目標を示し、今飯島委員が言ってもらったことも重ねて伝えたい。

審議結果 【原案のとおり可決】

◀ 神澤委員 退席 ▶

○日程第10 その他

・市長専決処分の報告について、松本教育総務課課長から説明
(質疑) なし

・令和5年3月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明
(質疑) なし

○閉会宣告

12時10分 閉会